群

【5年】

13画

音 グン
訓 むれる・むれ・むら

なりたち 羊と君との会意形声字。羊は〝むれ〟をなしていて、そこにはボス(君)がいる。羊のボスという意味の字で〝むれ・むらがる〟という意味を表したもの。

いみとじゅくご

▼むれ。むらがる。
群衆…群がり集まった人々。
群集…群がり集まること。また、その集まり。例群集心理(群集の一人となった時の、自主性を失って、集団に引きずられる心の状態。)
群居…群れをなして生活すること。
群落…同じ条件の場所に同じ種類の植物が群がって生えること。また、その集まり。
抜群…群を抜いて(大勢の仲間の中で飛び抜けて)すぐれていること。
▼数が多い。
群雄…多くの英雄。例群雄割拠(多くの英雄たちがそれぞれの土地に勢力をはって対立抗争すること。)

よみかた 群小・群生・群像・群島・一群・魚群・大群

漢字学習コーナー

同じ〝月〟でも

今の字形は全く同じでも、旧字体では違っていて、もちろん意味は大変に違うものがあります。

月偏　月(第一画が丿)
肉月　月(第一画が一)
舟月　月(第三・四画が、)

月偏の字には〝朧(ロウ)〟(朧月(おぼろづき))〝朓(チョウ)〟(みそか月)〝朏(ヒ)〟(三日月)〝など見慣れない字が多く、皆、月に関係のある字です。

肉月は、〝肉〟という字の変形したもので、昔の字は、〝肉〟という字でした。〝腹・腸・脳・脚・胴・腕・胸・肺・脈〟など、人体の名称を表す字に用いられています。

舟月は、〝舟〟という字を簡略化したもので、昔の字は〝舟〟という字でした。〝朝・朕・服・前〟などの月がこれです。

さんこう 昭和二十四年「当用漢字字体表」が発表され、日常使用する漢字の字体が整理・簡易化されました。これ以前の字体を、今の字体と区別して〝旧字体〟と呼んでいます。

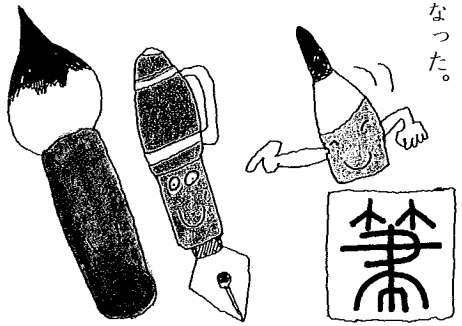
〈現在〉〈旧字体〉

朗 朗 月
脳 腦 肉
朕 朕 舟

筆

【3年】

12画



音 ヒツ
訓 ふで

なりたち ふでの本字は聿。手にふでを持った形の聿に竹を加えた会意形声字。柄が竹で作られているので〝筆〟になった。

いみとじゅくご

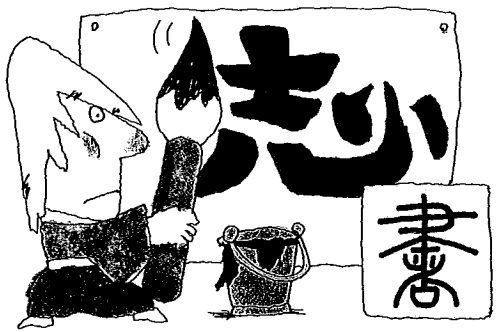
▼ふで。
毛筆…ふで。(鉛筆や万年筆と区別した呼び方。)
▼書く。
自筆…自分で書くこと。本人が書いたもの。
筆舌…書くことと話すこと。文章と言葉。用例筆舌に尽くし難い苦しみにあう。
筆不精…手紙などを書くのを面倒がること。また、その人。「筆無精」とも書く。
▼書いたもの。文字・文章・絵など。
真筆…本当にその人が書いたものであること。
能筆…文字を書くのが上手なこと。また、そういう人。
加筆…文章や絵を手直しすること。

よみかた 筆記・筆算・筆者・筆勢・筆跡・悪筆・曲筆

書

【2年】

10画



音 ショ
訓 かく

なりたち 昔の字は書で、聿(筆)と者との形声字。筆で字や絵を〝かく〟ことを表した字。

いみとじゅくご

▼かく。
書記…❶文字を書きしるすこと。❷記録係。❸事務担当の補佐役。
清書…下書きが済んだものを新しくきれいに書き直すこと。また、書き直したもの。
▼書いたもの。文字。
書道…筆で文字を書く芸術。
書家…文字を上手に書く人。特に書道の専門家。
▼本。
書籍…本。書物。
書見…本を読むこと。例書見台
▼書きもの。手紙。
書類…書きつけたものの総称。
書簡…手紙。書状。例書簡集

よみかた 書留・書画・書斎・書式・書写・書状・書面・書物・書評・楷書(かいしょ)・行書・辞書・草書・著書・図書・読書